

# わんにゃん通信

2026.4月

最近は大いぶ暖かくなってきて、日中は長袖だと暑く思う日が増えてきました。

4月といえばワンちゃん達の狂犬病の予防接種の時期です。今回は日本ではみなくなって久しい狂犬病についてのお話です。

## 狂犬病とは？

狂犬病と”犬”という文字が入っているので犬だけの感染症とイメージしがちですが、世界中で年間数万人が死亡する人獣共通感染症です。発症するとほぼ100%死亡します。ほとんど全ての哺乳動物から感染する可能性があります。

ウイルスは感染動物の唾液に含まれており、哺乳動物に咬まれたり、傷口、目や口の粘膜をなめられたりすることで神経系の細胞に感染します。動物は前足をなめるので、ウイルスの付いたツメで引っかかれても感染する可能性があります。



4000年以上前から記録がある  
感染症なんだって

## 症状

潜伏期間は1~3か月程度

人

- 前駆期：発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みや掻痒感
- 急性神経症状期：不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状
- 昏睡期：昏睡（呼吸障害によりほぼ100%が死亡）

潜伏期間は2週間~2か月程度

犬

- 前駆期：性格の変化と行動の異常
  - 狂躁期：興奮状態（無目的な徘徊、目に入るものを頻りに咬む）、光や音の突然刺激に対する過敏な反応
  - 麻痺期：全身の麻痺症状による歩行不能、咀嚼筋の麻痺による下顎下垂と嚥下困難、舌を口外に垂らしながら流涎、昏睡状態になり死亡
- ※狂躁期と麻痺期を明確に分けることは困難なことが多く、前駆期から麻痺期に移行することもある。

発症すると有効な治療法はない

# 日本では



国内での感染は 1956 年にヒトとイヌで、1957 年にネコで確認されたのが最後になります。日本で狂犬病が発症した事例は 4 件で、すべて海外経由の感染になります。しかし東南アジアなど海外では流行しており、輸入感染症としていつ日本に入ってきてもおおかしくない状況です。犬の飼い主が全員ワクチンを接種することで、もしウイルスが国内に持ち込まれても、**感染拡大（パンデミック）を防ぐ「集団免疫」の役割を果たしています。**

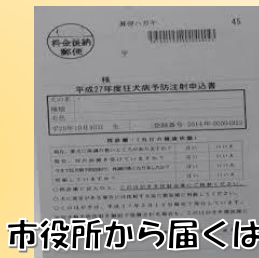
## 狂犬病ワクチン予防接種は

## 法律で義務付けられています

生後 91 日以上の子犬には**居住市町村への登録と毎年の狂犬病予防注射**が義務づけられています。



※登録済みのワンちゃんでも狂犬病ワクチンの注射を打ちにこられる際は下記のいずれかをご持参ください。



市役所から届くはがき

唐津市、玄海町のお住まいの方は病院で登録・鑑札の交付が可能です

### 余談...

### 全ての哺乳類に感染するのになぜ犬だけ義務なの？

特にアジアの流行地域での人への感染原因は犬になるからです。**狂犬病に感染する 9 割以上が犬から感染している**ので、人への被害を予防するために、犬の狂犬病ワクチンを法的義務にて管理しています。また猫に関しては完全室内飼育では感染リスクは限りなく低く、日本は世界少数の狂犬病は 70 年近く発生がない清浄国のため、野良猫への感染もほぼないとされています。